

会計不正への対応について、監査に対する財務諸表利用者の期待 ～格付アナリストの立場から～

2012年5月30日

(株)格付投資情報センター
格付本部 チーフアナリスト
後藤 潤

信用格付とは

□ 格付対象の信用リスクに関する格付会社の意見



格付対象によって、R&Iでは以下のような種類の信用格付を付与

① 発行体格付

一般事業会社、金融機関に加え、政府系機関、地方自治体、国、学校法人などが格付対象

② 長期個別債務格付

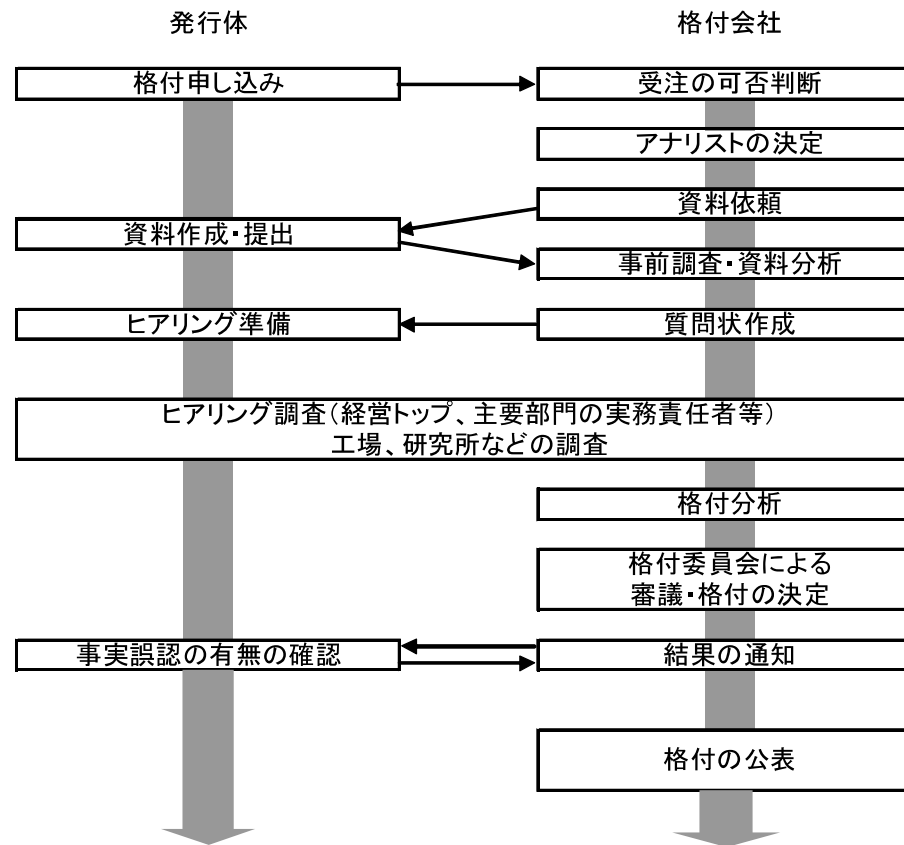
社債、国債、地方債、財投機関債、サムライ債、メディアムタームノート(MTN)プログラム、優先出資証券、J-REIT発行の投資法人債、ストラクチャードファイナンス商品などが格付対象

③ 保険金支払能力

④ 短期格付

コマーシャル・ペーパー・プログラムなどが格付対象

格付のプロセス



監査済みの財務諸表を主たる情報として利用

(金融商品取引業等に関する内閣府令第306条第1項第6号ロ)
信用格付の付与のために用いられる情報について十分な品質を確保するための措置がとられていること

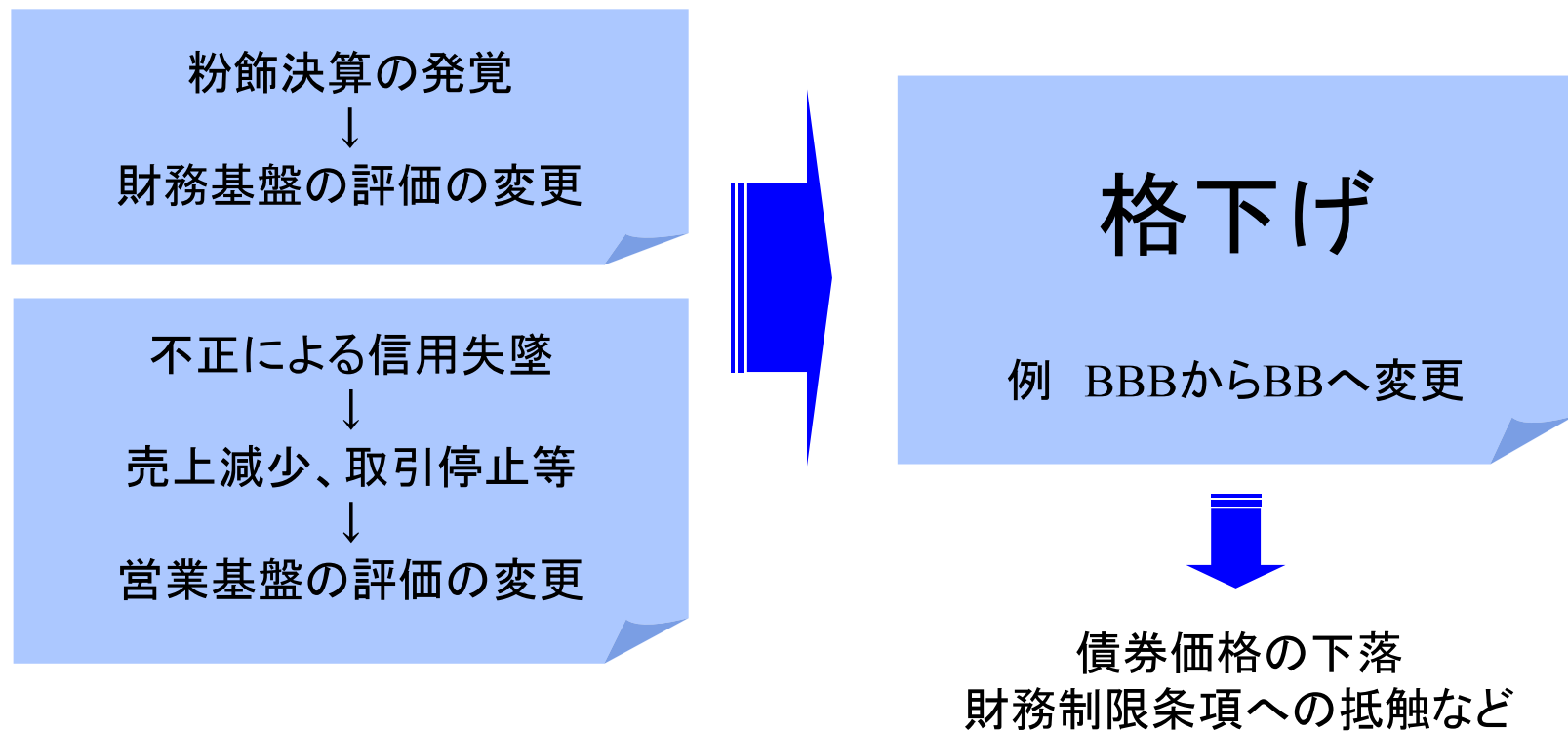


R&Iでは、公認会計士による監査済みのもの、又はそれに準じた信頼性が確保されている決算書類を主要な情報として利用



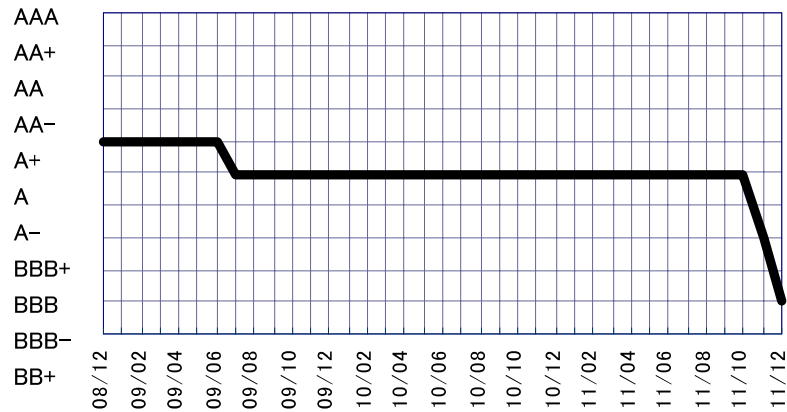
分析の対象となる決算書に
不正・誤謬による重要な虚偽表示がないことが格付分析の前提

財務諸表に重要な虚偽記載があった場合



オリンパスの格付推移

【格付推移】



- 財務基盤の悪化のため、Aの格付を維持も、方向性をネガティブに変更 [2011.08.29]
- 社長の解職をめぐる経営の混乱長期化懸念を受け、レーティング・モニター(格下げ方向)に指定 [2011.10.20]
- 過去の投資有価証券等の損失計上先送り発覚を受け、BBB+に格下げ、モニター(格下げ方向)を継続 [2011.11.08]
- 第2四半期決算で過年度修正、減損、繰延税金資産の取り崩し等で連結自己資本が429億円まで落ち込んだ。これを受け、BBB-に格下げ、モニター(格下げ方向)を継続 [2011.12.14]
- 新経営陣固まるも、一連の事件に関連した損失発生リスクは依然残っているとし、レーティング・モニター(格下げ方向)を継続 [2012.04.24]



オリンパスに対する監査について

実施された監査手続等は十分だったか？

- 銀行への確認手続
- 「飛ばし」取引の監査手続
- 外部専門家による報告書への依存


財務諸表利用者の監査への期待

監査の役割＝財務諸表の適正性についての意見を表明

- 監査基準は、監査人に重要な虚偽記載がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている
- 違法行為の発見は、監査人の責任にあらず


期待ギャップ

財務諸表利用者の期待＝財務諸表に重要な虚偽表示がないことを証明
→ 重要な虚偽表示につながる違法行為は発見できるような態勢を



期待ギャップを埋めるための検討課題

- 監査手続のあり方など監査基準の見直しを検討する必要があるのでは？
- ※ その他の検討課題
 - 監査法人の体制
 - 監査報酬、監査時間
 - 被監査会社の監査の受け入れ態勢 など



本資料に関する一切の権利・利益(著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます)は、特段の記載がない限り、株式会社格付投資情報センター(以下「R&I」といいます)に帰属します。R&Iの事前の書面による許諾無く、本資料の全部又は一部を使用(複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます)し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。
この資料に掲載された見解又は意見は作成者のものであり、R&Iの見解又は意見を必ずしも表明したものではありません。